



がんの家族教室

第5回

がんを子どもに
いかに伝えるか？

2015.6.18

愛知県がんセンター中央病院
緩和ケアセンター

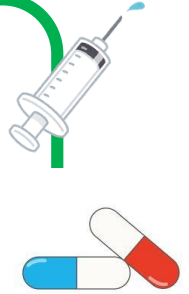
井上 さよ子 (看護師)
深谷 恭子 (看護師)

がんを子どもに伝えることは

親と子のオープンなコミュニケーションの機会となります



- 子どもにショックを与えたくないから言えない
- これまで通りの生活を送りたいのにできない
- 手術の後に身体が思うように動かない
- 手術の傷や化学療法による脱毛をどうしよう



家族の
信頼

子の
不安
軽減

家族と
治療
する

他・・・

疎外感

- どうしてママが家にいないのかな？
- 何か心配なことがおきている？
- “がん”っていう病気らしい。うつるのかな？
- さみしいな。どうして何も教えてくれないの？



がんを子どもに伝えることは

親とともに困難な状況に乗り越えていく力を培う機会

不安 責める



- ・何か親は隠し事をしているのではないか？
- ・よくないことが起こっているに違いない・・・
- ・自分が悪いことをしたからだ・・・
- ・良い子にしていればママの病気はよくなるかも？



がんについて伝えられた直後の反応

- ・泣く 怒る すねる
- ・戸惑う 距離を置こうとする・・・



とまどい

3. 子どもたちと共にあるために

1) 子どもの持つ力を皆で支えていきます

- 子どもは多くの物事を知り、様々な感情を抱き、成長している
- 子どもは「できること」をがんばりたい
- 伝えられないことは子どもを孤独にする
- がんを伝えたことで子どもの様子に変化することは自然なこと
- 変化は周囲の大人や医療者が一緒にサポートすることが大切

3. 子どもたちと共にあるために

1) 親もケアの対象です

- 子どもにがんを伝えることによって、子どもだけでなく、お父さんお母さんの社会生活にも影響を及ぼす不安を近しい人々で支えていくことが必要
- いつも強くある必要はありません
- 身近な医療者は気持ちの整理や子どもの相談に関する資源となります

4. 子どもの発達段階に応じた伝え方

大切なこと

- ★子どもが家族の一員でありつづけること
- ★がんを伝えることとともに、子どもを想う気持ちを伝えること

4. 子どもの発達段階に応じた伝え方

1) 幼児期

- 「がん」という病気そのものについてはおそらくショックは受けないでしょう
- 次の3つの点をポイントに話すとよいでしょう
 1. だれのせいでもないこと
 2. 「がん」という言葉を用いること
 3. 伝染しない病気であること

4. 子どもの発達段階に応じた伝え方

1) 児童期

- がんが命に関わるかもしれないことを知っています
- 素直な言葉で質問し、大人と同様に知りたいと思っています
- 子どもにわかりやすい例えを用いて、誠実に具体的に答えてあげること
- 良い方向に向かうよう頑張っていることを伝えよう

4. 子どもの発達段階に応じた伝え方

1) 思春期

- 思春期の子どもはおおよそその事実を知りたがっている
- ごまかしや隠し事には敏感で、怒りを感じやすい
- 心の平静のために、心を揺らす出来事から少し距離をおくことがある
- 友人と話すことで気持ちを整理することも
- 自分で情報を収集し、自分にできることを探す力を持っている

5. 子どもの支援のお話

1) CLIMB(クライム) プログラム

Children's Lives
Include Moments
of Bravery

セッション	テーマ	今日の気持ち	アクティビティ
1	自分自身やがんまつわる話を共有し、孤立感を弱める	楽しい・幸せ	「自分について」自己紹介カード
2	がんという病気とその治療について知識を得る	混乱	「がんってなに？」絵を使って説明
3	悲しみの感情を表現し緩和する	悲しみ	悲しみのお面
4	子どもの持っている強さを引き出し不安を緩和する	怖い・不安	強さの箱
5	怒りの感情を適切に表現し対処する方法を考える	怒り	怒りバイバイサイコロ
6	家族とのコミュニケーションを手助けする	気持ちを伝える	お見舞いカード

迷った時に手に取る本のご紹介

● ママ、なんで？びょうきのママにききたいの

(作者・訳者) 阿部 円香・文 さとみ・絵

(出版社) 書肆侃侃房 1,280円 (対象年齢) 幼児～

お仕事と家事と毎日忙しかったまほちゃんのお母さんは、まほちゃんが3歳のお誕生日を迎えたころ入院してしまいました。ママは何で病気になったのかなあ？まほがおりこうにしなかったからかなあ？幼い子どもが抱えるたくさんの質問に大人たちが優しく答えることで、子どもはその時の状況をゆっくり上手に受け入れられることが描かれた本です。

● お父さん・お母さんががんになってしまったら

(作者・訳者) Ann Couldric作、阿部まゆみ、田中しほ訳

(出版社) ビラールプレス、2,625円 (対象年齢) 小学校高学年以上

お父さん・お母さんががんであることがわかった時、子どもにどう伝えていけばよいでしょうか。この絵本は子どもが親のがんについて理解を深め、不安を少しでも減らして穏やかに生活ができるようにと願って、分かりやすく書かれています。

まとめ

1. がんの問題は大人だけの問題ではなくなりました。
2. 親と子のオープンなコミュニケーションと、子どもが親とともに困難な状況に乗り越えていく力を培う機会となります。
3. 子どもの発達段階に応じた伝え方を参考にしましょう。
どんな発達段階においても、
“だれのせいでもない” “がんという言葉を使うこと”、“伝染しない”と伝えることはよいそうです。